公開講座

TOMITAKENOSATO
PUBLIC LECTURE 2026

認知症になっても
私らしく、このまちで

―安心と豊かさを支える地域・人づくり―

家族としての経験 × 脳科学の視点

脳科学者・恩蔵絢子さんと、これからの関わりを考える。

講師　恩蔵 絢子 氏

東京大学大学院総合文化研究科 特任研究員

専門は自意識と感情。母の認知症に娘として向き合う一方、脳科学者の視点で認知症の人の感情や「その人らしさ」を発信している。ＮＨＫスペシャル「認知症の母と脳科学者の私」が、大きな反響を呼んだ。著書に「脳科学者の母が、認知症になる」「感情労働の未来」など。

参加無料 ｜ 事前申込制

2026
10月9日(金)14時~16時
13時30分開場

https://forms.gle/twnHUo8ej2WQn6Lh6

申込期限 ：9月18日（金）まで

長野市東部文化ホール

長野市小島804番地5
（柳原総合市民センター内）

※工事中につき駐車台数に限りがあります。
乗り合わせ・送迎でのご来場にご協力ください。

主催：社会福祉法人 光仁会 富竹の里　　後援：長野市

長野市大字富竹1621　TEL 026-296-7383
http://tomitake-carenet.com/

令和８年度 富竹の里 公開講座　アンケート結果のご報告

講座名：「認知症になっても 私らしく、このまちで」－安心と豊かさを支える地域・人づくり－
日　時：令和８年 10 月９日（金）　14 時から 16 時
場　所：長野市東部文化ホール（長野市小島 804 番地５）
内　容：脳科学者の恩蔵絢子氏（東京大学大学院特任研究員）を講師に迎え、「脳科学から見た認知症」と題した講演会を開催した。
主　催：社会福祉法人光仁会富竹の里
後　援：長野市
参加者：164 名

このたびは富竹の里公開講座にご参加いただき、またアンケートにご協力いただきありがとうございました。皆さまから寄せられた感想や今後へのご希望を、結果としてお知らせします。

１ アンケートについて

・回 答 数：70 件（回収率 42.7%）
・回答期間：令和８年 10 月９日（金）～令和８年 10 月 30 日（金）
・集 計 日：令和８年 11 月２日（月）
・集計項目：年代・立場・講演の感想・講座後の気づき・次回希望テーマなど

２ ご回答いただいた皆さま

年代	人数・割合	立場	人数・割合
40 歳未満	13 人（18.6%）	介護・福祉関係者	42 人（60.0%）
40 歳代	17 人（24.3%）	行政・地域支援関係者	13 人（18.6%）
50 歳代	20 人（28.6%）	医療関係者	6 人（8.6%）
60 歳代	14 人（20.0%）	ご家族・介護をされている方	3 人（4.3%）
70 歳代	5 人（7.1%）	民生児童委員	4 人（5.7%）
80 歳以上	1 人（1.4%）	地域住民・一般参加者	2 人（2.9%）

※ 人数・割合はアンケート回答者 70 人についてのものです。参加者全体の内訳ではありません。
※ 割合は小数点以下第２位を四捨五入しているため、合計が 100%とならない場合があります。

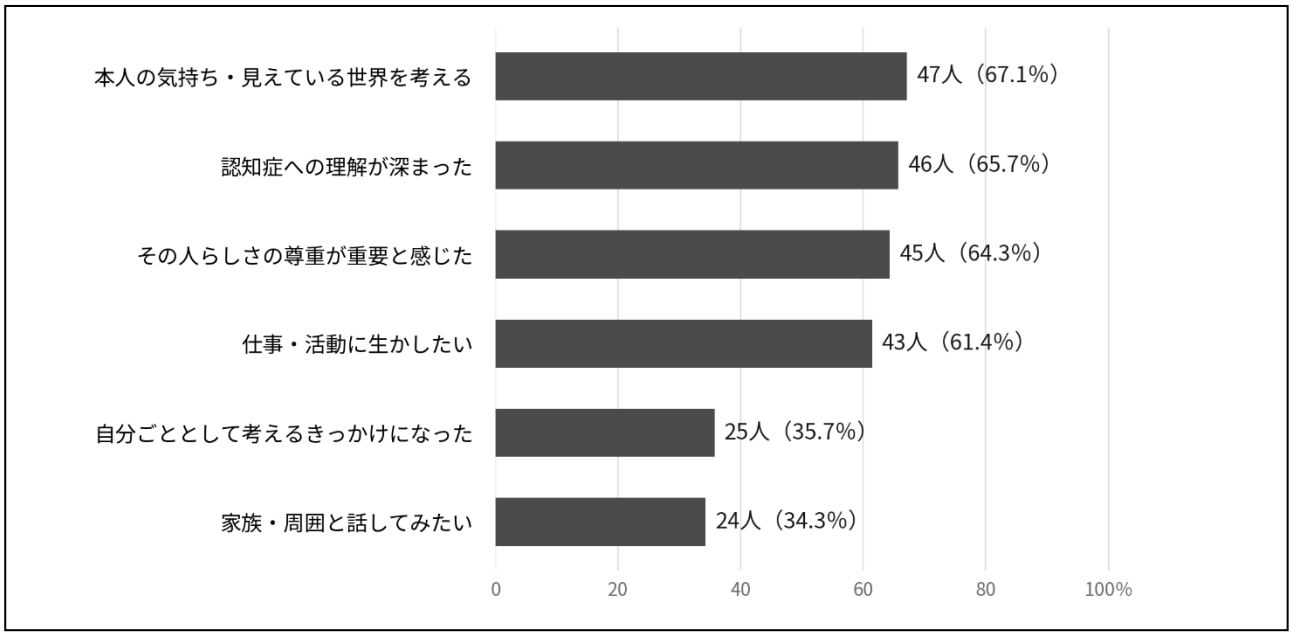
３ 講演の感想

回答	人数	割合
大変よかった	57 人	81.4%
よかった	13 人	18.6%
合計（肯定的評価）	70 人	100.0%

※ 回答した 70 人のうち、57 人が「大変よかった」、13 人が「よかった」と評価してくださいました。

4 講演を通じて感じたこと

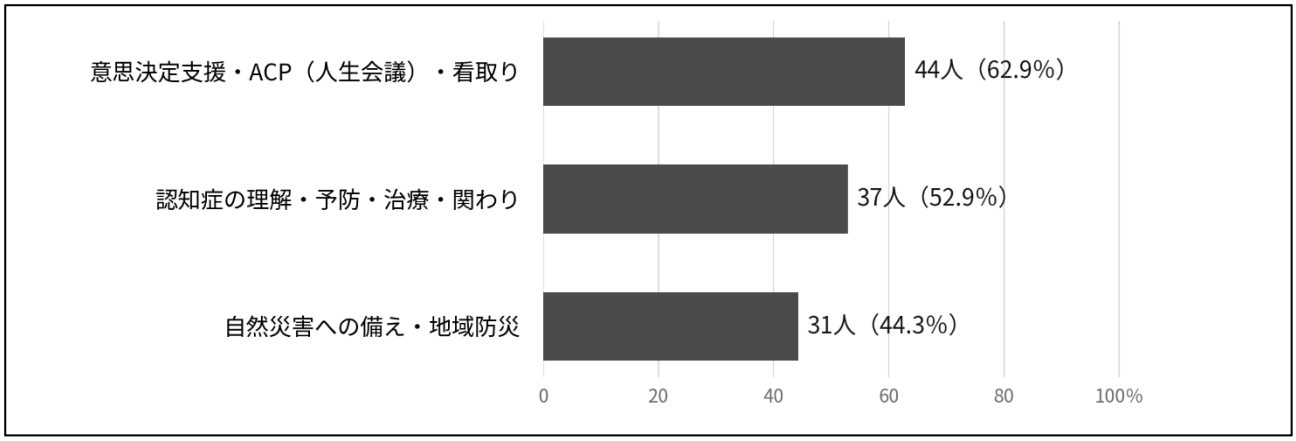
・講座を受けて感じたこととして、回答の多かった項目をご紹介します（複数回答）。



※ 上記のほか「特に変化はなかった」１件、自由入力の回答１件（いずれも 1.4%）がありました。最も多かったのは「本人の気持ちや見えている世界を考える」（47 人・67.1%）。「認知症への理解が深まった」（46 人・65.7%）、「その人らしさの尊重が重要と感じた」（45 人・64.3%）も多く、本人の気持ちや、その人が今も持っている力に目を向ける気づきが寄せられました。

5 これから聞いてみたい講座のテーマ

・皆さまが今後の公開講座に期待するテーマもお聞きしました（複数回答）。



※ 希望が最も多かったのは「意思決定支援・ACP（人生会議）・看取り」（44 人・62.9%）。次いで「認知症の理解・予防・治療・関わり」（37 人・52.9%）、「自然災害への備え・地域防災」（31 人・44.3%）でした。

6 皆さまから寄せられた声

・「心に残ったこと」70 件と「実践してみたいこと」47 件の自由記述から、主な気づきをご紹介します。個人を特定できないよう、内容を要約・編集しています。

■ 感情や思いを大切にする

・認知症があっても、感情や人を思う気持ちを大切にしたいという声が寄せられました。

・いただいた声（要旨）：「その人の思いを尊重し、安心できる関わりを続けたい」

■ **安心できる「安全基地」のような関わり**

・過保護でも放任でもない「安全基地」となり、本人が安心してできることに挑戦できるようにしたいという声がありました。

・いただいた声（要旨）:「安心できる声かけや見守りを意識し、挑戦を支えたい」

■ **その人が持つ力を生かす**

・できないことを補うだけでなく、これまでの経験や得意なこと、本人にとっての役割を生かしたいという声がありました。

・いただいた声（要旨）:「できることを奪わず、少しの手助けで本人の力を引き出したい」

■ **言葉の奥にある思いを考える**

・「帰りたい」という言葉や繰り返しの訴えの奥にある不安を考えたいという声がありました。

・いただいた声（要旨）:「言葉だけで判断せず、その奥にある不安や気持ちを受け止めたい」

■ **学びを家族や地域にも広げる**

・家族との関わりを振り返り、職場の仲間や地域の方にも、今回の学びを共有したいという声が寄せられました。

・いただいた声（要旨）:「学んだことを家族や地域に伝え、認知症への見方を広げたい」

7 アンケートから見えてきたこと

・アンケートからは、認知症についての理解を深めるだけでなく、本人の気持ちや思い、今も持っている力を大切にしたいという声が多く寄せられました。

・また、安心できる関わりを工夫し、本人の選択や役割を支えることを家庭や介護の現場で実践したいという声や、学びを地域に広げたいという声もありました。

8 これからの公開講座に向けて

（学びをつなぐ）

・皆さまの気づきを大切にし、家庭・地域・仕事の中で生かせる学びを共有していきます。

（次回のテーマ）

・希望が多かった意思決定支援・ACP（人生会議）・看取り、認知症の理解、防災を今後の企画の参考にします。

（開かれた学びの場）

・ご家族や地域の方、専門職など、さまざまな立場の方が参加しやすい公開講座を目指します。

認知症になっても、一人ひとりの思いや願いが大切にされ、住み慣れた地域でその人らしく暮らし続けられるように、私たちにできることを皆さまとともに考えていきたいと思います。

改めまして、ご参加・ご回答に心より感謝申し上げます。

社会福祉法人光仁会富竹の里